

繪本  
豐臣  
勲功  
記

三編  
四

2209  
24



特 遠 13  
冊 2209  
卷 25

繪本豊臣勲功記三編四之卷

目錄

船江兩將受謀夜設西陣

屬船江城攻

補再用謀夜設佐久間陣

屬同發本陣

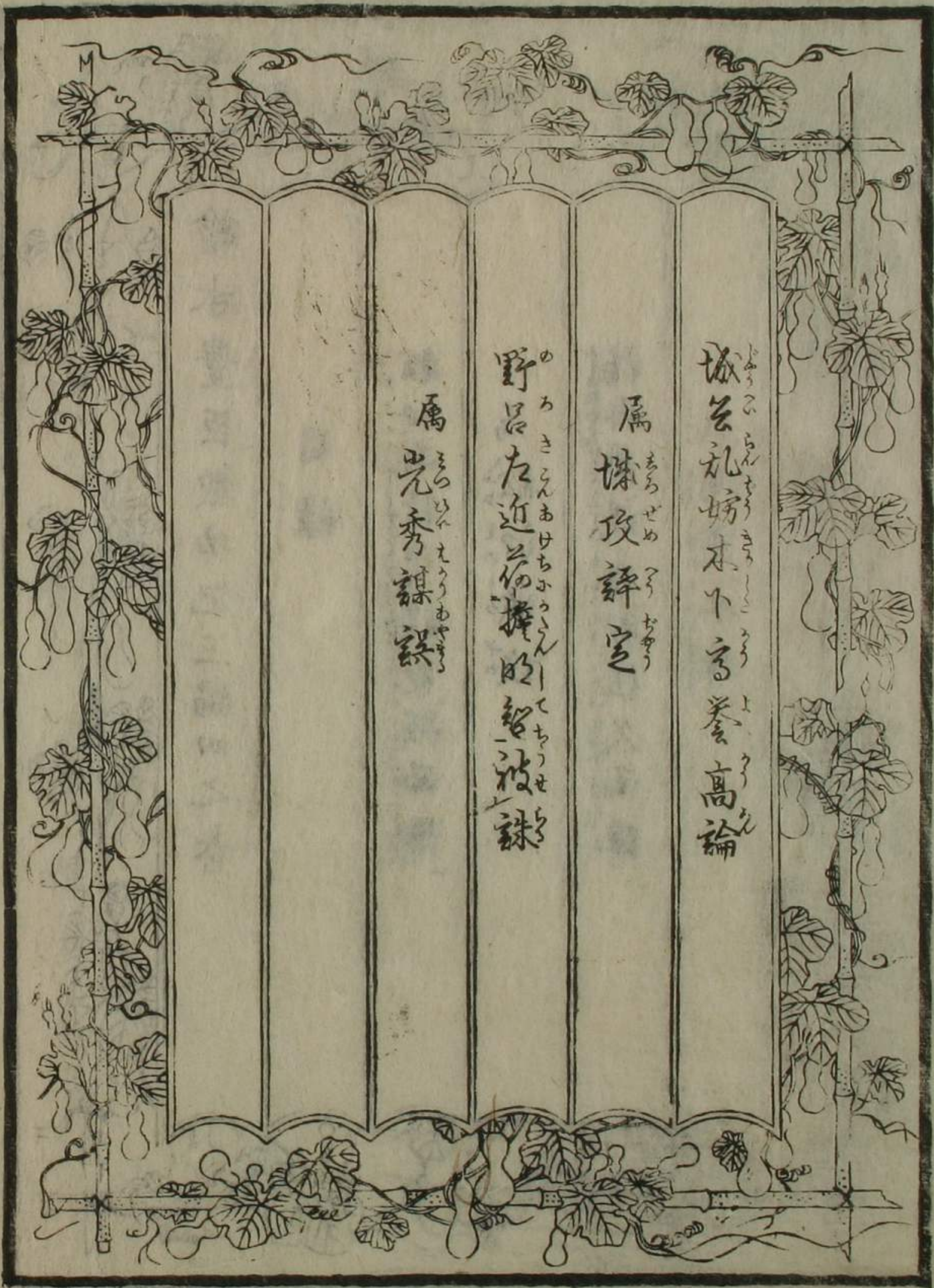
繪本豊臣勲功記三編四之卷

城名丸坊本下高巻高論

属 珠攻評定

野呂左近将助智波珠

属 先秀謀誤



繪本豊臣勲功記三編卷之四

江戸 櫻澤堂山 編輯

船江兩將受謀夜鼓西陣 属 船江城攻

大河の水ハ堰止る小漏やまると然バ今織田の陣中小大軍跡秀

吉ありとひとも捕玉具よく謀りて是を殿となしつゝ得小計あり

先秀も一遭ハ欺りて戦んとし。向ひと更小敵なきが。憫もく軍を収

つりし。遂小夜ハ曉小を然不ど小安保申勢安居新九舟は軍ハ

甲夜より秋撃の調度しつもの。時刻方僅やと待不ど小夜も寅とく

源彌まは遠くをあらじと諸卒小指揮を。是探をさかどこそあれ

桂瀬山の麓小當りて。暗号の炮声向くと其がま。夫捕のまをせむ

るぞ殿へ出よとのふより早く。魁隊の巻士百騎をくり。城をつりて奇を



せむを思ひの俣小信長の本陣を發動させ、厥后進軍七百騎を引  
 率し、關路山の東を經て、西方より廻り、寺井の邊小陣を執り、織  
 田勢を欺引せしむ。こゝを段んと計り、備又城攻の門を以て陣より  
 の指揮をとり、夜段の小心をなす。こゝも自軍は大膽あるを頼む。驕  
 がらざる軍多く、甲亥のうちに防意せしむ。五更のころ、深く急り  
 陣を注ぎ、士過すに睡り、中小能く西方の攻に、氏家常陸入道、全安  
 藤伊賀守の陣所、寺井の宿小あり、諸將の陣と、こゝに際余  
 程隔たりしう、いよく、惱まざるべし。とて、大急り將軍、こゝも小勢、驕しを  
 ぞま、つらつら、船江の芸士を、秘より、案内はよく知り、いづきの陣まれば、敵  
 易きと、うごめ、けと、遠く、船所、小潛投て、圍ひ、氏家安藤が陣  
 不こそ急過、ふん、こゝを、こゝに、候の者、告ぐ、久段投よ、こゝに、俣

小寺井を當て、臺地小推進せ、七百余人と二隊となり、安居新九郎の安  
 藤が陣小、菟り、安藤中務の氏家が陣小、推し、西隊一時、小島院を  
 圍せ、南は方より、強悩を、相い、小も、大勢、法像、進退、と、とく  
 吹起け、氏家安藤の、軍の、惑感、耳小、四方より、喊を、院に  
 声、所、慌忙、驚き、把り、も、た、と、虚小、して、強出、を、敵を  
 とも、も、馳投、こ、め、つ、け、も、せ、ず、難起、擡起、勢、ひ、種、く、捧、き、り、る、お、だ、死  
 人員、瀬、の、宛、小、大、漢、せ、一、磯、畔、の、真、鱗、と、素、を、か、く、あり、氏家安藤  
 の、西、將、の、い、も、も、同、る、勇、士、を、不、意、と、段、を、自、名、法、士、右、横  
 左、横、小、礼、の、い、う、小、嚴、く、指、揮、を、こ、も、耳、小、も、密、を、連、惑、ふ、あ  
 將、の、小、も、倣、術、を、こ、も、づ、ら、陰、を、か、つ、陣、を、遠、を、途、と、戦、ふ、り、氏  
 家、法、老、堂、蜂、を、般、若、之、助、勇、を、奮、め、進、來、る、敵、を、こ、の、田、遭、や、と、返、ひ

楠正具  
謀計と  
定えて  
氏家安藤の  
陣へ  
夜襲す



捲つて安保が駿率走を以て。観るく亦る鳥銃小般若之助頼頼を段  
 目眼瞋とて拵得ざるを。津門之水と名罵蕙般若之助と拵て好布  
 終小首を段とらる。左右をうち西方の陣をとり。版泊市橋塚本  
 さんと加勢の軍を出来り。夜も又曉さんとせしむと小。船江勢方僅は是  
 まとと思ひの信小夜殿一果せ。と申退け一同小人数を纏め同道より  
 船江を當りてぞ退返しぬ。加勢の軍軍遠跡へ喚斗んと馳急しととも。敵  
 とりつは一人もつんを。自軍の士と唇接をせ。戦死の軍百五十余人。癩  
 負は軍之百余人。敵を兼ふ。十回五人少のさざりたる。口惜きこと  
 謂たりなり。懸断をせども返らぬ。遠由と本陣へ沿伸し。小信長  
 小も諸將小も。遠跡をゆく。情き。儲こそ本下ヶ詞の磯石大地をうら。植り  
 けと肝と熱して。驚嘆を。然ども信長昨夜の款敵を。久もくも朽慥く

思ふ。えや大軍が當敵て一搦小攻臨せ。教圍く令せある。本下拵めて  
 言法をら。昨夜の敵ハ等閑ならむ。形を智謀ある者。船江城小を  
 を所を。ちまの定めて八田城の捕正具あ。くひべ。八田の城の頼より大  
 丈の雁守も置るべし。小懸なりとて捨。新。災出来。船江の  
 城を攻んとて。大軍を動したる。八田に城小雁守を置。諸城は  
 通路を断。截玉。び新般の災あるまじ。登。新隊部志。と  
 と。信長も。信長小も。後。の。ともなり。と。船江の城を。と  
 沈。予。憤。散。と。宣。秀。再。船江の城を。と  
 然。八田城を雁守ら。こそ肝要。船江の城を。と  
 の。八田に雁守小。と。信法。小。信。久。同。右。同  
 左。亮。五。十。余。人。を。遣。八田を堅固小雁守を。と。本下重

て東より君の御怒を掃きんため。船江を殿人とおがしめ、昨夜軍令  
 を守らばして。夜殿の為小破られざる。氏家安藤を波野へ向らせ。敗軍の  
 罪を贖せ玉ふ。道理小ゆらんと。言吐し。小信長初く得心せらる。  
 實も能こそ料理こそとて。彼西人小指揮し。ふひ。船江の城小純白ひ  
 一時小攻く。踏死し。新殿は辱を嘗ぐべし。阿河津津も同萬五郎堀  
 本大膳依も。氏家安藤を援助す。余は面々を陣野小止り。西守の隊伍  
 をとりて。雨野をへらんと。命出さるるや。各準備し。続ち。その  
 勢都合五千余人。船江を當て攻進す。城下をく進すや。ゆるや。せん。後  
 の恥辱をきざんり。純と。將系ともふ心せ。一。城をとり。鳥洗をばるべ  
 幕を二をこ。小騎。雨らんと。死力を振ふる。煮めたり。井も。當城の國司  
 不知。隠居。所のこ。見小。孫さ。これ。た。右。背。門。の。旁。小。大。治。を。續。し。

追より。旁平地。小。續。き。て。攻。便。よ。れ。小。初。こ。も。も。堞。高。く。溝。深。く。矢。丸。も  
 多く貯へ。これ。バ。烈。しく。防。戦。せ。し。小。より。進。ま。た。右。も。く。進。む。得。を。攻。使。ん  
 で。ぞ。見。へ。り。たる。氏。家。入。道。大。小。怒。り。遠。城。を。と。り。臨。し。得。ん。バ。他。小  
 面。向。ら。ま。ま。し。方。術。こ。そ。あ。れ。斬。り。せ。よ。と。使。率。小。指。揮。々。一。近。隣。は  
 在。家。を。多。く。う。ち。壊。ち。一。石。小。取。集。を。外。小。柴。埋。草。を。多。く。あ。つ。め。焼。れ。バ  
 七日の蚤。天。より。五。千。余。人。と。こ。隊。小。部。一。隊。の。勢。少。竹。策。を。撃。げ。を。  
 正。魁。小。進。め。て。矢。丸。を。防。が。せ。二。の。隊。は。勢。小。柴。埋。草。を。あ。つ。め。く。溝。を  
 埋。め。よ。と。播。る。を。こ。の。隊。は。勢。小。只。顧。小。控。を。溝。を。跳。越。く。堀。小。ら。り。着  
 攻。投。と。叫。ぶ。を。上。り。て。幕。を。し。が。謀。臣。し。如。く。做。果。せ。く。五。千。余。人。一。同。小。堞  
 際。ま。ま。ぞ。進。む。倚。危。や。遠。城。方。僅。目。前。攻。陥。さ。る。づ。つ。え。へ。り。し。城。中  
 小。て。の。初。より。是。候。の。拳。動。小。些。も。拒。ま。を。知。ら。ぬ。堀。を。在。ら。り。し。進。む。

磐礫小提著せ得と沈視時分はしと遠隊形伍より一同小大木大  
 石を抛薙く。烈火の像く捲きさるる。正魁は進軍四百人頭を撃れ  
 背を碎く。是を足と折られて倒伏す。すに是を見たる响左右の射  
 窓を吹開き鳥銃まびりく放散し。進軍心やとひかきとも面を向登れ  
 方もなき。魁隊の勇士千餘人あり。是を親とせ死退。安藤伊賀者  
 こをせ見く。俺们遠城を臨さるん。持く甲斐おれ命あり。決ても  
 捨づれ命なら。城中小提て斬死せよ。と血眼小なりて指揮をれ。向方  
 御も更小し。後く大木大石小うち殺さるん。朽憾さ小只城の声を  
 費さるもの。城を眠んで勅下。氏家も今も於方あり。遠中を本陣へ  
 江伸を減田殿あきと所し。怒髪盛を衝破をくりの大意おげ。船江乃  
 叔輩いさる。厥も小剛勇あり。そや。聲バ天物鬼神小もせ。やたら攻

臨さ置登き。新隊を加へく攻起よと。三千余騎を加勢し。暮  
 船江を攻るといども。昨日の如く防ぎし。今日も空しく退いて。休息  
 せ。こそ朽憾なき。遠响八田の楠。船江の後援せ。ささく思。佐久  
 間が懸守大軍小。謀を盡し。圍く。容易小出ること。傳をせ。あき  
 小よりて。暮び計畧せ。工更し。潜り不熟する。士を操出。汝い小も  
 方便く。長崎城あり。船江友系小対面。此事輪を得と。遠奥返書を  
 して。帰る。と口は精。諸會ぬ。賈高の俸小歩。拾く。密小城中を  
 出。たる。遠者元來。膽ふ。進軍の陣不。懸氣も。やうくと出  
 け。怪。隊令疎。諸のべ。

捕再用謀。叔殿佐久間陣。屬。同。諸。本陣。

蟻蛇。百足あり。といども。蛇の足。さ小。如。と。や。佐久間。軍。五。千



余騎之船こそ眼ありながら八田城中より出来し。一會をのて漏せし隙  
 發小柄懐きて次あり。然れども八田の使も難なく長鴻の城小引を  
 腹筋た京小對面し。楠の書翰を逆興々もた京こそを披見せし  
 小船江の軍事急小は某こそを救さんとととせども織田は文軍小舟  
 圍まき救ひを出さ事うにし早く長鴻の本願寺門徒を漸催促し  
 船江あらび小當城の後援うて頼入の目石山の主人も漸加勢の  
 事と頼てより願出か死に願小早速漸書を賜はしその余の精々遠者小  
 漸所あるべしこそ書さるる。左京頼く使小向ひ汝石山へ参上し。決意小  
 漸を兼所りしや。いふ小と向を使の漢子いふ小も石山へ参上し。心具の書  
 翰をさそりて。漸加勢を願ひ重せし。後上人不懸小がしぬれ石山  
 近色の漸門徒を加勢小にしかうきてい事置くく所をあひごりし謀

計も漏聞へ軍令調ふは。依く長鴻の門徒せりて援を命  
 出ささし。漸書はと船も此小ありと出さるる。左京奉取口を  
 洋目全たる小。地の門徒候心せし。楠を援け。船江を救ふべし。  
 遠者奔走せられぬ。莫大に執恩さるべし。上人がしぬる。條を石  
 山の家軍中頼能。同頼康よりの奉書あり。贈款奉より楠を  
 勢州の謀と頼し。由へ平日小親しく言候せし。後令楠一分法  
 候なりともい好む小ありぬと。刻や石山の漸流ありとや。所時も猶徳を  
 登ららむと。速く門徒を催促さるべし。と指揮あると見ん八田の使士  
 いよく漸加勢あるべし。此書の如く小計さるる。と落び密書を呈出さ  
 左京亮こそを熱候し。とさる。實小妙施の計は未うか。懸が授計を行ふ  
 とて。所時小長鴻の街へ使者を遣道場坊とり。門徒の首領小右の



道場坊桂瀬山  
登幾き捕正具が  
夜打の謀と  
熟さうむ

豊後言一糸巻之四  
七言三巻之四

豊後言一糸巻之四

趣中送り。近隣の門徒を信使しりまき。我もくと馳集り。元時も  
遇ぬも際小一筆餘人小を馳びり。原東こま依の御民の東日小武勇  
と好むる由へ服部大少飲院を捕が教ふせし。又一方の服部  
率部一隊の道場房を大將に。南を不可思議先如東と書く  
大旗を推進させ。信長の本陣を桂瀬山小向せり。又一方の服部  
大系免大將となりて。五千余人同く九字名号に旗を推し八田の橋  
下小籠守り。依久間の方へ進發。遠謀計を訊る小楠正具預り。時々  
津土真守の風波を察し。本願寺の上人へ。使より拜謁せり。時々  
去後と通しり。石山の境原もよく知る。間頼能依が奉書  
とも。元時小備書させり。然るに頼能大系免の實上人の指揮と  
心得の容易播きせり。其の圖き一向門徒の五千余騎の道場房

小従多。桂瀬山へ馳向ふ本陣の急士山とより遠小こまを御却て  
他軍の自軍の騎一也と思ふ。向小才や彼軍勢を陣をく進せり。が  
直地小旗陰を伏せさせり。大將分の輩をり。虎落の外小崎派を  
ハ捨別石山本願寺の門徒ふて。織田殿天下静穏せしめ。軍馬を  
發せられ。條感嘆のあまり。且の國恩を報ぜん。と漸加勢。使りて。いの  
を信使が身小相應の攻口へ。漸副へ賜るべし。と謂客より。信長こまを  
听し。備へ石山の頭如上人。予勇極小恐怖し。郵を退後せし。も  
のなるん。然りと。い。とも。信使小加勢を信ん。と武門の恥辱等。あり。後こ  
攻口の隊へ。副へ。志も。信長。陣見巡と。披。と。疎小。宿  
陣せよ。備。又。用。事。あり。响。ハ。沙。汰。と。宣。ふ。と。道。場。房。集。所。ハ。松  
信。依。本。山。と。人。の。指。揮。小。より。遠。く。急。り。い。り。法。を。空。く。野。陣。は。り

その外圍より、私軍あり。相慮も亦お色相應の攻口と、所指揮端  
る。五千余人と引率し。八田は、城下小趣きを、進言、依久間が陣小案  
内し、本願寺の指揮小より。加勢のこめ小案、く、は、同根の口、水、濱、け  
ま、依久間信盛、おれを、听て、願、神、妙、の、心、願、あり。然、ども、我、陣、軍、を、こ  
ら、ふ、不、是、な、れ、が、加、勢、少、の、及、ぶ、は、し、君、の、所、在、陣、へ、お、り、む、れ、く、と、申、せ、よ、と、申、  
と、彼、勢、勢、然、ば、は、我、依、一、個、の、を、少、い、あ、ら、う、と、教、多、の、と、士、と、百、俱、く、と、れ、ハ、  
往、來、殊、小、難、義、あり。所、勢、教、目、の、所、勤、勞、わ、く、所、宿、も、い、ハ、一、島、群、  
が、ま、し、く、い、ひ、ど、も、斬、率、い、く、我、隊、の、を、軍、教、為、戦、場、へ、向、く、と、い、は、し、合、お、あ、  
有、降、お、り、の、交、代、で、守、ら、せ、い、と、も、悩、心、し、た、事、へ、も、お、ら、し、は、し、所、計、的、を、所、  
う、ひ、お、き、と、最、情、怯、氣、小、額、容、れ、が、依、久、間、が、を、軍、遠、日、來、安、剛、と、く、軍、を

せ、だ、休、息、せ、な、ら、ず、と、思、ふ、機、會、あり。遠、加、勢、と、を、壁、事、あり。と、依、久、間、と  
初、め、ら、く、小、より。信、盛、素、より、石、山、と、人、を、信、作、し、は、は、は、疑、い、も、せ、く、も、衆、小  
岩、陣、を、お、き、置、く、ら、う、ら、う。遠、响、捕、正、具、の、寨、據、小、登、て、腕、と、つ、ん、ま、は、依、久、間、  
が、陣、の、面、小、あ、ら、う、て、南、を、不、可、思、議、先、如、來、と、託、書、し、大、旗、を、差、し、  
と、被、く、諸、の、謀、略、成、就、せ、ら、う。今、宵、は、教、殿、に、て、依、久、間、が、勢、を、退、ひ、拂、  
き、勢、ひ、小、本、陣、ま、で、も、若、投、べ、と、遠、懸、小、準備、し、結、き、一、進、言、五、百、余、  
人、甲、兵、の、お、ど、小、を、稱、つ、ら、を、依、久、間、が、陣、を、勢、と、ん、と、時、刻、を、侍、く、勤、  
ら、う。諸、ま、う、と、進、言、は、陣、中、を、彼、部、が、隊、の、を、軍、依、久、間、が、兵、士、小、追、從、  
く、さ、さ、さ、く、疲、ま、た、し、ん、人、小、卒、軍、の、勢、隊、あり。我、分、は、春、を、承、領、し、  
歳、一、く、守、り、ら、せ、んと、親、切、し、事、を、お、し、う。依、ま、も、教、び、一、禮、を、懸、ら、ば、誓、  
侍、ま、ん、と、て、持、場、く、く、と、お、り、し、し、會、一、杯、小、甲、曹、統、弁、後、陣、小、投、て、休、

楠正具  
佐久間信盛の  
陣中へ  
夜殿す



息しつゝ、服部方儀も十分小成果せりと心小脱び定めて捕正具  
 我儀が遠陣より来りし陣の暗号の旗少く知らるゝ念の爲小つげ  
 たりとて以前来りし使士を呼出。始末を告ぐ八田珠中へ帰らり  
 正具使士と大賞兵し恩賞計財を多く賜へ落び夜段の暗号を告  
 て服部が許へ指遣し。その後珠中を呼集め心構の下知を傳へて夜の  
 深きを待居る。既小約せし時刻も有りぬる正具五百の志士を  
 率ひ捕小佐久間が陣小推進せ。暗号の一砲を放つややや喊せり  
 陣中へ憂地小致投る。此時佐久間が陣中へ大槩服部が隊  
 の軍も六捕か多を引誘く案内知る公麻く。縦横を破小くせ  
 廻り夜段を踏ぐ休小をせり。上と下と混乱させり佐久間信盛大  
 小愕き。加勢を共小防んと立出。是れども既已小陣中にて歎とあり。四方

八面より鳥銃を放蕪く。威を合せ。二々。小攻起り。是れ今こそ加  
 勢小来りける。石山門待小防せん。と尋ぬ。是れと更小入へぬ。も道理  
 こそ外を。形勝。素武武者のふり。用小達。死軍を。し。佐久間  
 も方儀へ拒抗小御なく。陣をうち棄。去り。是れ。橋。市。橋。の。両。人。も  
 慌忙。急。ぎ。を。捕。り。諸。勢。小。指。揮。し。短。陣。急。小。追。捲。り。意。言。平  
 斐。な。れ。歎。々。と。遠。聴。病。軍。と。身。懲。し。小。信。長。の。陣。を。退。極。べ。し。勵  
 め。や。懃。め。と。守。り。を。く。捕。報。於。一。隊。小。あり。息。々。も。進。せ。を。退。蕪。た。り  
 佐久間ハ陣を抜出。隊伍を整へて。後敵を防り。と。思。ひ  
 小退。来。り。敵。の。詰。り。こと。山。の。顔。を。俵。く。な。れ。瞬。際。も。わ。ら。せ。し。て  
 遂。小。植。頼。の。本。陣。を。喘。く。推。着。ら。せ。り。捕。此。と。將。心。八。田。の。居。城。も  
 大事。あり。軍。八。十。分。の。傷。な。れ。バ。是。邊。退。せ。し。の。か。ま。り。に。岩。を。打。こ。る

波瀾の如く。魏勇んで退去せり。備まらば桂瀬山へ到りし。長崎門徒  
 の五千余騎の信長は陣の隙小隊伍疎小勸へりしが。今宵新殿は  
 暗号を以て本陣の体と窺ふ小細の旗本の公士達一軍計も支つるが。昭  
 河の加勢小二千余人を分て遣へり。又西方の攻に少の氏家安藤依の  
 減つては。小勢ありと遊軍よりし。本下藤吉守を當向する遠响本下  
 愠まらば。これ若を新めく。稟をせり。斯くのあり。新本陣漸を人小  
 くおとしし。切くハ小居尚もたやと言吐を。信長屋々今日船江  
 と攻落さん小然とを。終の向あり。此も氣悩ふ陣なり。今小本下  
 カなく。西方の隊へ趣き。今陣今も四千余人小過さる。今新も  
 既下流彌を。此は初小成り。八田の城へ遣へり。道場房々  
 今候の士卒を返り。彼候の首尾の斬くと楠腹部も。時とも小勝軍

の蹠蹠を精々結り。ほく漸助母一玉とん。偶ふまじと。さるふより。  
 五千の公士頼てより。新殿の準備へ調へり。然るの暮と暗号を。暗  
 一。本陣の之方より。遠無小減を。吐とつ。鳥銃撃。菟籠入せ。ハ。  
 總本分外小豫。強き。この事ごと起出。防んと。ハ。ハ。ハ。ハ。  
 五千餘人の門徒。四方より。調投く。楠七舟。本正具ら。に。在り。  
 織田信長小。ん。泰せん。と。呼。を。を。く。吹。く。と。是。の。陣。中。い。く。顛。倒。は。  
 慌忙く。ま。が。中。小。も。近。士。危。從。の。小。衆。達。柄。器。提。げ。逃。出。夜。殿。の。公。士。  
 小。濱。里。合。遠。を。専。途。と。戦。へ。とも。思。ひ。ま。ら。さ。る。事。と。い。ひ。楠。七。舟。子。所。  
 怖。く。ま。ら。ぐ。あ。も。防。得。さ。ま。ば。信。長。大。小。怒。り。玉。ひ。ま。ら。ら。吹。く。出。へ。と。  
 ま。ら。を。昭。智。先。秀。押。止。免。こ。ま。ハ。定。め。て。本。願。寺。より。加。勢。と。稱。して。  
 来。り。軍。の。夜。殿。へ。こ。も。り。て。い。え。ん。正。具。と。い。ひ。備。あり。單。小。自。給。の。氣。

信長近侍の  
少輩軍  
臂力を  
竭し  
道場坊の  
役殿を防ぐ





と惑ふも。謀計とこそ知らざること。然れども大勢私入一たき。若小の  
 危急を避さるるも。今と強く勧めあせられ。信長を犯すべくを  
 習せし具一。山は南へ退陣し。玉ふ光秀のまへに心算しと執返す  
 公士を勵し。防戦時を福と願ふ。八田を懸柄し。依久間が敗軍。素  
 乳は優ゆく息とも次得を散く。小連来る。夜殿さし。門徒の軍  
 勢。依久間の勢を見るよりも。備こそ八田の敵。殿は。逃歸せしと見え  
 知つて。は。態と開ひく。押通をを始く。活くる。長柄み。本陣の中へ  
 逃指し。遠小も夜殿は。入らざれば。再び。強き。逃出んと。取て。返せ。後  
 より。門徒の軍。公。前後と。單と。刺さ。り。め。と。攻起。る。小。依。久。間。の。公。士。の  
 素乳あり。故の軍。勢。の。完。満。より。適。是。出。た。路。は。し。惆。然。と。あり。ら。る。が  
 決ても。逃れぬ。命。と。や。かり。ひ。ん。極。死。狂。小。斬。り。と。是。こ。が。言。ふ。一。語。一。款。

味方を見分も中らむ。同士殿してぞ担起せ。長治院のこきと。視く。  
 敵は十分破るる。夜の曉ぬ。同小。遠。取。へ。と。て。自。軍。の。勢。を。一。不。小。纏。  
 ぬ。速くも。軍。を。歸。し。く。も。陣。中。こ。き。と。些。も。知。る。を。斬。つ。き。ら。る。路。を。回。小。  
 東方に。小。色。づ。れ。る。漢。四。方。の。敵。田。勢。本。陣。へ。取。殿。の。投。て。大。將。の。行。方。  
 知。ま。と。と。油。伏。あり。し。公。諸。士。取。り。は。も。取。敢。を。持。口。く。せ。う。ち。捨。り。  
 桂。瀬。山。へ。馳。来。る。ま。つ。る。本。陣。少。の。明。智。を。細。依。久。間。の。倫。革。一。不。小。集。  
 り。戦。死。負。傷。を。檢。非。小。款。と。思。ひ。て。斬。伏。し。も。悉。く。自。軍。の。勢。を。中。く。  
 敵。を。一。個。も。取。ら。ず。る。由。へ。奉。せ。極。了。難。断。を。し。怒。ま。と。今。更。論。を。り。と。一。款。  
 を。遣。こ。と。子。方。あり。し。也。

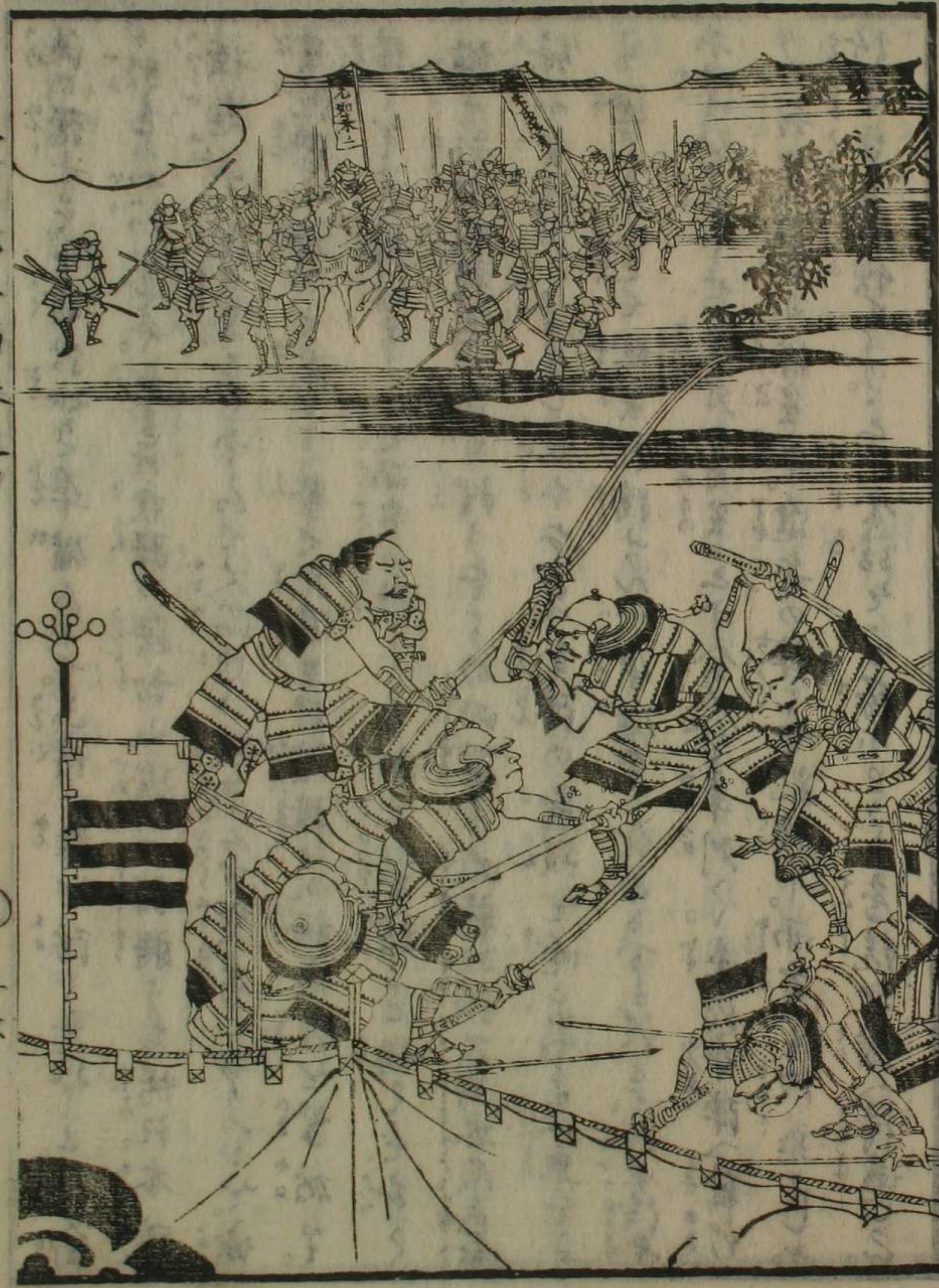
城。公。礼。坊。本。下。高。輪。属。城。攻。評。定

靈。運。り。殿。の。山。小。登。り。不。遠。を。後。小。し。下。る。時。を。遠。を。若。小。と。一。款。

豊臣記三編卷之四

十四

織田勢 闇夜 同士の 毆



織田勢  
闇夜  
同士の  
毆



織田勢 闇夜 同士の 毆

流の隠士とて新計如き準備ありて。山崎の難を防ぐ小巧とて佐久間  
 敗るゝ如く不ぞや。是は夜殿の強敵小攻口の諸將も愕然本陣  
 掛瀬山へ馳集る。こゝ小よみて大河内の攻口。この方空虚とありつて。城  
 谷沈視し。時こそ来ると撃て出進せし結構を。柵鹿垣を撃破り  
 陣とよくお防せしと。西方の陣をり。柵一本抜こと偶々を。好く  
 城谷教一人殿も。此一方の大將へ佐久間安房氏家  
 備小。交代し守りし。本下なき。本陣の強敵を所と。此とも一率とと  
 も強がせ。是にて城谷お防せん。準備を合ある。つらとて。行中淺也  
 小陣と。ちとせ。その。月。自。自。三十余人を率列し。急。急。本陣へ。馳。行  
 り。程。さ。み。外。小。城。谷。軍。進。兵。の。陣。を。亂。妨。し。西。方。へ。も。攻。撃。見。し。が。  
 行中守る。備。禎。て。より。二。千。余。騎。を。之。隊。小。と。り。ち。を。銃。を。備。へ。得。意。の。心。

城谷遠陣小推去と。柵を破る事ハ。こゝ置きて。急流小撃倒され。  
 或は後先小搦伏ら。是にて。員。死。人。多。う。り。な。ま。は。新。ハ。愜。え。し。と。百。て。返。り。  
 早々城中へ。通。投。り。る。中。を。勝。重。治。殿。控。さ。る。多。く。は。城。を。把。り。こ。し。陣。へ  
 遣。り。る。喉。へ。信。長。挂。瀬。山。へ。帰。陣。し。也。是。を。河。見。あ。ら。せ。ら。し。は。新。氣。小  
 宣。ふ。り。自。軍。の。名。軍。將。殿。小。整。と。是。を。敵。と。し。て。軍。多。く。敵。と。を。討。り。し。  
 一個も。な。し。後。八。田。を。懸。守。り。る。依。久。間。の。敗。走。編。小。絶。り。船。の。進。出。  
 も。ま。し。共。小。謀。ら。ま。て。還。返。し。東。南。小。の。柵。を。破。ら。し。謂。々。り。ぬ。れ。し。  
 中。小。末。下。が。陣。中。の。と。敗。ら。ま。し。せ。て。敵。を。撃。つ。こと。不。妙。なり。身。代。り。と。當。し  
 て。お。び。宣。ふ。り。情。き。へ。石。山。の。門。徒。あり。當。國。軍。均。分。し。て。後。進。地。小。橋  
 川。へ。進。出。せ。し。石。山。を。攻。陥。し。頭。如。父。子。を。捕。捕。門。徒。を。悉。く。殺。滅。し。  
 遠。背。憤。を。散。ぶ。と。罵。り。る。其。機。會。し。も。本。下。所。在。へ。走。り。上。り。

大將以是昭々。其志を實しせり。渠儼々秋風の狼籍ハ殊小憎く  
 此とも是ハ決して石山と人の指揮小あもを夜談の計略深密なる様  
 長濱門徒の軍軍が向く懸不小あらむ。必宮八田の楠が謀設けし小  
 相違あるまじ。發據ハ八田の懸守あり。佐久間が陣ハ門徒の加勢  
 衆とせし。そ次八田より殿出せし事。殊小楠が謀りたる暗号ハ謂  
 ても知れし。殊小當陣を殿する門徒が楠正具と号し小て石  
 山の指揮をなさると正具自軍へ知らせあり。此上ハ唯小楠が謀り  
 國中平均を為と云がしめさるゆへ。船江の城も只今急攻被せ  
 ざる小も及なむ。大河内さへ落城なきも余が枝城ハのりし  
 くのづれ左右漸心を決し。多小水城を陥されしと稟をせ信長  
 謂小やかすバ小城を陥さん事ハ勿論なきとも。動ハ八田船江討滅

せり。其の妨せり。号を索はなむ小も亦やと今を本下。事ハ再懸守  
 せり。是も單小本城小向をせり。稟をせ信長。秋の謀。五千の兵  
 小て懸守てせり。昨夜の如く殿をせり。渠を隊固く懸守ん小。一万余  
 人もかくんバ。命を本下推込して居る。八田は懸守の兵士多き。兵  
 小障あり。小居の自勢。五六百人も違なき事。是申さく。船江の城ハも千余  
 人。つらき。是も。陣。兩。まじ。と稟を小信長。い。不審。厥を。覺。米。那。中  
 州あり。思。わ。あ。り。や。と。宣。ふ。と。本。下。秀。吉。腹。練。く。君。小。知。り。如。軍  
 の。道。ハ。虚。と。實。との。二。ツ。を。降。據。應。變。小。用。ゆ。と。り。て。は。し。と。せ。り。然。ハ。細。小。八。田  
 小。城。を。五。千。余。兵。あ。り。と。圍。し。時。楠。ハ。六。百。の。小。勢。ゆ。く。佐。久。間。の。陣。を。破。り  
 小。敵。將。を。り。て。自。軍。以。實。小。當。り。し。り。方。僅。々。と。五。六。百。の。兵。を。り。て。  
 八田の。一。城。を。懸。守。と。り。て。虚。と。り。て。實。小。あ。り。り。原。來。正。具。望。み

添く慎く多き武士なれば大軍做換し後一儀は嫌ふて向ふ軍を  
 尋常の如く思ふまじ。必定計畧ありと心得決して數手出申し是  
 則産實変化と活用する。各家の極秘不伝と親と居て深し。其  
 信長深く感得せし。終らざる如く料理べしと評さる。其時  
 西方の陣小らち近り。松原内區永江津之壘を隊將を白し。方便を仔細小  
 東合め五百余人とて。添へ八田の雁守小遣とされ。無江の城へも増  
 九曾た集つて大將を白し。一千余人を當向らま。備本城の攻にハ秘法如く小  
 諸將と對向く。柵鹿垣を堅固不結し。又西方へ佐久間友房氏家  
 の諸將を秘のり。小隊部せられ。本下ハ旗本へ遊軍こして留めなす。ハ  
 備本城を臨さる。と再軍議を傳ふ。其時。向小月智ト云。先秀  
 進み出く東とせ。ハハ小も大。河内ハこの要産ト云。城は世ト小多くハハハ。

別累代相續は國を以て公權。夫九の多きことハ。稲葉山の。秋。其。
 女。向々及ぶ。不。小。あ。む。む。然。れ。日。を。鳥。洗。の。競。合。も。ま。ま。を。登。あり。小。居。
 御。謀。ふ。便。宜。の。ゆ。へ。に。試。察。を。入。り。ま。す。城。中。に。勇。士。を。招。げ。ん。備。を。
 招。き。小。道。せ。ぞ。ん。バ。敵。手。を。借。り。是。を。謀。ま。す。と。詔。を。本。下。膝。を。
 進。め。よ。く。心。を。屬。ま。し。ま。す。又。之。を。燃。練。せ。ら。れ。よ。と。言。ふ。先。秀。殿。ハ  
 心得くはる。り。の。こ。く。料。理。を。と。り。と。响。陣。中。小。立。返。り。腹。心。の。長。兵。田  
 久。右。衛。門。と。呼。ぶ。謀。計。を。東。合。め。辨。言。つ。を。遣。り。し。る。

野。呂。左。近。衛。將。領。智。波。謀。馬。光。秀。謀。過。

愚。人。の。淺。き。見。る。様。蠅。子。の。血。を。つ。ん。が。か。し。と。讀。り。し。を。秘。く。長。小。お。り。ハ  
 當。ら。ず。取。ハ。ま。す。執。人。と。稱。す。小。當。城。小。島。の。家。人。小。野。呂。左。と。り。ハ。昔  
 あり。秋。心。若。源。く。く。財。宝。小。目。を。屬。す。時。ハ。君。父。計。道。を。も。忘。却。せ。り。古。今

是座竟此方便ありとて。光秀較多の壯室を中へこれせりつて物  
 々。野呂左とて何擧らむと口罵らまて久右邊へ密書をさうけ  
 把一走小幡谷へ到りたり。茲ハ佐久間が持場をまば奥田佐久間小  
 對面して主人光秀が口吐せ演る後密書を筆小指し野呂左  
 陣中へ射込ごうたをが老黨これを拾らて密は主人へ遞與るまは  
 左近何ふやと披たひるに物の交を別後の疎情を書記し。底書  
 小の當城の籠居始終なく慥ひに。後小戦死せむとせん久右邊  
 一降参はしむへ信長の古今の名將あり。後ハ必死天下の武士の棟  
 梁なるべし。早く心を傾けく後業を討て至るは是下壹人のま  
 らど同意の個々を荷擔らるて自軍小降参せむれるは當座の恩賞

増大なるべし。乃齋をも兼織田家小仕へ謀の外ある優福あり。往日の如  
 くおのが故小足下とも安樂小似縁せしむるに。進むるあり。番細  
 の朝の對面の時と記し。ゆと書記たり。左近の書を讀了り。熟くこ  
 読吟なり。發も奥田が初め如く。信長小降参せむ。遠方利ありと  
 思ひ極め。その如くも遠書と網記す。奥田が謀へ射込ごう久右邊つ  
 取く開たひる小命は懸懸く理は當りて覺一俵。小足も傾てより。厭  
 るねは。ども便るは方ひたすに。後日よ身の上の安危を考へ心も  
 心小任せきりし。今日足下は懸書を得く。園敷小炬燈を得るが如く。  
 漸芳志ちうごら志ざし。是小信く漸教初め。同志を招き。重んず  
 べくは。然らば漸勸の奈足下一個の漸料理小や。且ま織田殿も  
 知。めを小や。兼所。これ音と記し。奥田屯地。取て返す。主人小



光秀與田  
左近、野呂  
と湯十



こまごませし六光秀又小長收なり。急死奉書を記得く。鐵田殿の内  
意うらばし。矣田小長久一連無く。六再び蟬谷子利に書し。私の書  
翰を添附多の金子ゆ。後にも小長近に評へ贈遺する。こまごま愈心迷入  
く。深く矣田を怖し。六寂く申射信す。ても及む。密小使者を往來  
させ。た近幸を謀る。とよ人かど。初引鐵田家へ降参の纏頭小せを  
や。と唇替思案ひ。ころが思當く。隙の隙なる。山かた馬助を初めり。  
左馬助心中。備へた近面。融小通意。我とも勾引入まん。とをる。心儀  
めり。曲者うると内心。怒まど。色あひ。出さむ。儲り。うち。初び。儲をよ。く。あそ  
初めら。ま。ころ。新て。六。難小。便。して。降らん。方便あり。や。と。問。れて。た。を  
その。方便。こそ。遠。なれ。と。明智。が。奉。書。を。見。せ。ら。ま。六。た。り。初。ま。ま。と  
初び。新。る。方便。の。あ。る。上。へ。我。も。こ。同。志。を。初。ま。ら。ん。信。と。ま。ま。と。と

のふふり。た近こまを實と心得奉書をゆりて。山かた。遍。共。り。こ。そ。を  
係り。左馬助。ハ。如。條。の。書。帖。を。襟。度。小。車。地。小。本。丸。へ。奉。上。り。野。呂  
た。と。運。意。を。改。望。敵。に。陣。中。へ。通。り。合。せ。取。の。如。く。と。書。帖。を。披。露。  
早く。誅。せ。加。へ。む。ん。禍。災。目。前。あ。る。べ。し。と。重。さ。小。う。つ。て。諸。士。と。評。議。  
た。と。を。捕。束。づ。れ。よし。山。か。小。下。群。あり。く。直。地。小。野。呂。が。陣。不。小。利。野。呂  
同志。と。評。議。ら。る。り。是。其。の。荷。擔。人。の。別。人。あり。む。玉。井。を。初。め。本。陣。人  
の。支。人。あり。孰。れ。も。是。下。小。對。面。して。よく。評。議。せ。んと。望。む。を。し。登。く。来。り。て  
評。議。ら。る。り。た。近。ハ。誠。と。かり。ひ。た。馬。助。と。同。道。一。陣。破。と。出。く。か。丸。は  
壘。堡。を。右。へ。過。り。响。救。多。の。云。亡。志。蒐。り。骨。地。小。た。近。を。搦。提。快。丸  
（擊。起。ゆ。れ。拷。問。小。も。賤。成。して。早。速。首。を。刎。ら。る。る。この。响。島。屋。尾。石。屋。舎  
國。司。小。若。く。重。さ。を。申。す。野。呂。が。敵。小。合。能。せ。し。と。方便。と。か。く。敵。を。敵





一語小奸邪頭きて  
 野呂左近無計  
 誅小階

謀のゆかり。斯くせばと初めし。諸將も是をよしとて。さき拵を  
ぞみたり。此の如く明智光秀ハ野呂が言伝を待煩て。屢城中を  
窺ひたまはる。漸くして左近が許より書翰ありぬと奥田が告ふ。左近  
や左近と用封をさし。同士の族を彼此拵らひ。早速降参はる  
まづ。然らば寸功を以て。参陣始面目あり。小子の持門より  
漸勝を引投。蜂谷の一營を。漸く小入とく。好く。信之。漸勝を志  
のひかり。小當遣さる。賜ふ。小子。漸勝。依の功。初は。城内の引導  
つうまのらんと。野呂が筆。痕小よく。偽書。如。然。小記。得。光秀  
視て。大小。執。び。急。信。長。の。漸。小。出。命。の。由。と。云。出。信。之。漸。勝  
をりて。蜂。谷。小。遣。さ。る。事。を。望。ま。け。る。响。小。本。下。信。之。小。向。ひ。只。下  
の計。設。け。し。み。ま。は。疎。なる。緯。ハ。ある。ま。じ。ら。き。とも。初。疑。惑。の。不。あり。た。を

同志と云。拵らりて。降参の事。實あり。ま。人。質。を。送。遣。し。且。ハ。忠  
らん。侍。士。とも。使。命。を。遣。は。り。信。長。を。遣。は。り。小。取。さ。る。て。書。翰。の。ハ。不。審。尤  
動。う。ま。は。麻。忽。小。軍。勢。を。遣。は。り。これ。を。よく。漸。思。意。あり。ま。と。云。ふ。と。云。ふ。と  
小。信。長。も。是。小。取。の。人。質。あり。ま。後。小。軍。勢。を。出。さんと。宣。ひ。り。ま。は。り  
智。朽。憾。く。ハ。あり。ま。本。下。が。諫。も。理。あり。ま。人。質。を。捕。得。人。質。を  
左。近。が。考。へ。遣。は。り。小。城。中。案。小。相。違。り。諸。ハ。遠。方。の。計。後。漏。り。の  
然。ら。ば。ま。は。輪。を。疑。ひ。つ。る。偽。り。と。信。長。と。遠。信。嘗。て。通。言。せ。ま。り  
光。秀。よく。契。腸。て。依。久。間。信。盛。の。一。隊。を。荷。担。ら。ひ。自。城。五。百。と。打  
混。り。て。蜂。谷。を。攻。臨。さんと。密。小。使。遣。は。り。ま。依。久。間。信。之。と。の。熟。意  
あり。ま。同。心。な。り。て。援。を。し。た。れ。ば。光。秀。大。小。も。執。び。ま。は。り。正。魁。小。進。と。出  
蜂。谷。より。攻。登。り。一。の。持。門。小。美。くと。推。進。野。呂。を。小。封。面。せ。んと



豊臣記三編卷之四

山本左馬助明智光秀七  
計く蜂間へ欺投もんと云

五五



豊臣記三編卷之四

五五

信ける响中、小の既、不謀計相違、せしを、知く持場を固め、  
 由(方)儀、光秀が進るを見、山か玉井、備を松丹を、  
 待らし、進を、とく、向引、を、一時、小施、  
 ひ、中、小、山、左、馬、助、進、を、  
 玉(と)部、の、中、堂、  
 奥、田、を、  
 頭、  
 近、  
 信、  
 解、

此はこそ、  
 くり、と、  
 くり、と、

繪本豊臣勲功記之編卷之四終

